【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第４区分
【発行日】令和6年5月8日(2024.5.8)

【国際公開番号】WO2021/241159
【出願番号】特願2021-530837(P2021-530837)
【国際特許分類】
B32B 27/36(2006.01)
B32B 27/00(2006.01)
B32B 27/30(2006.01)
B29B 17/00(2006.01)
【FI】
B32B 27/36
B32B 27/00 L
B32B 27/00 101
B32B 27/30 102
B29B 17/00

【手続補正書】
【提出日】令和6年4月24日(2024.4.24)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
ポリエステルフィルムの少なくとも片面に、水の接触角ＨＸ（１）が０°以上６０°以下である層Ｘを有する積層ポリエステルフィルムであって、｜ＨＸ（２０）－ＨＸ（１）｜が５°以上であり、層Ｘの結晶化度Ｃ（０）が０％以上３０％以下である積層ポリエステルフィルム。
ＨＸ（１）：層Ｘに水が接触してから１秒後の接触角
ＨＸ（２０）：層Ｘに水が接触してから２０秒後の接触角
｜ＨＸ（２０）－ＨＸ（１）｜：層Ｘに水が接触してから１秒後の接触角と２０秒後の接触角の差の絶対値
【請求項２】
１５０℃３０分間熱処理した後の層Ｘの結晶化度Ｃ（１５０）が０％以上３０％以下である、請求項１に記載の積層ポリエステルフィルム。
【請求項３】
前記ポリエステルフィルムの層Ｘを設ける側の表面粗さＲａ（ｎｍ）と、層Ｘの厚みＸｔ（ｎｍ）の比率Ｒａ／Ｘｔが、０．００１以上１．０以下である請求項１または２に記載の積層ポリエステルフィルム。
【請求項４】
前記層Ｘが、ポリビニルアルコールを主骨格とする樹脂を含む請求項１から３のいずれかに記載の積層ポリエステルフィルム。
【請求項５】
前記層Ｘのポリエステルフィルムと接する面とは反対面に、水の接触角ＨＹ（１）が８０°以上１２０°以下となる層Ｙをさらに有する積層ポリエステルフィルムであって、フィルムの層Ｙの水の接触角ＨＹ（１）（°）とＨＹ（２０）（°）が以下の式を満たす請求項１から４のいずれかに記載の積層ポリエステルフィルム。

４５≦｜ＨＹ（１）－ＨＹ（２０）｜≦８０
ＨＹ（１）：層Ｙに水が接触してから１秒後の接触角
ＨＹ（２０）：層Ｙに水が接触してから２０秒後の接触角
【請求項６】
前記層Ｙが、ジメチルシロキサンを主骨格とする樹脂を含む請求項５に記載の積層ポリエステルフィルム。
【請求項７】
前記層Ｙの層Ｘと接する面とは反対面に被離型層を設け、層Ｙから被離型層を剥離する離型用途に用いられる請求項５または６に記載の積層ポリエステルフィルム。
【請求項８】
前記層Ｙの層Ｘと接する面とは反対面に被離型層を設け、層Ｙから被離型層を剥離した後、層Ｘと層Ｙとが除去される用途に用いられる請求項５または６に記載の積層ポリエステルフィルム。
【請求項９】
層Ｙの層Ｘと接する面とは反対面に被離型層を設け、層Ｙから被離型層を剥離した後、さらに層Ｘと層Ｙとを除去したポリエステルフィルムを再利用する用途に用いられる請求項５または６に記載の積層ポリエステルフィルム。
【請求項１０】
前記被離型層が、チタン酸バリウムを主成分とするセラミックスグリーンシートである請求項７から９のいずれかに記載の積層ポリエステルフィルム。
【請求項１１】
積層セラミックコンデンサ（ＭＬＣＣ）製造工程用の離型フィルムとして用いられる、請求項１から１０のいずれかに記載の積層ポリエステルフィルム。
【請求項１２】
前記層Ｘが、重合度３００から１０００、けん化度が３０以上８８以下のポリビニルアルコールを主骨格とする樹脂を含み、該ポリビニルアルコールを主骨格とする樹脂が、３から２０ｍｏｌ％の共重合成分を有する請求項１に記載の積層ポリエステルフィルム。
【請求項１３】
前記共重合成分が１，２－エタンジオール基、またはスルホン酸ナトリウム基である、請求項１２に記載の積層ポリエステルフィルム。
【請求項１４】
前記層Ｘのポリエステルフィルムと接する面とは反対面に、層Ｙをさらに有し、前記層Ｙが、ジメチルシロキサンを主骨格とする樹脂を含む、請求項１２または１３に記載の積層ポリエステルフィルム。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５１】
Ａ；６５°以上８０°未満
Ｂ；８０°以上９０°未満、もしくは６５°未満
Ｃ；９０°以上。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００７０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００７０】
［塗剤Ｍの作製］日本触媒（株）製のポリビニルピロリドン「ＫＷ－３０」（平均重合

度３００００）を、４質量％となるように水に溶解し、塗剤Ｍを得た。